

令和5年度第4回高岡市介護保険運営協議会議事録（要旨）

日 時：令和6年2月16日（金）

午後6時00分～

場 所：高岡市役所8階802会議室

（出席委員）

炭谷会長、金岡副会長、吉田委員、石多委員、山本委員、米澤委員、上見委員、宮崎委員、梶委員、三浦委員、向井委員、松井委員、広岡委員（石田委員代理）、坪内委員、加藤委員、堀井委員、松岡委員、山吉委員

（欠席委員）

松倉委員、河合委員

（事務局）

戸田福祉保健部長、関原高齢介護課長、宮島副課長、吉國係長、永森係長、吉野主任、山岸主任

1 開会

2 議事 進行：炭谷会長

3 意見交換要旨

＜事務局説明＞

- （1）高岡市高齢者保健福祉計画・高岡市介護保険事業計画（素案）に対するご意見と対応について

議事（1）について事務局 吉野主任が説明

○委員

介護人材不足やeスポーツについてのご意見も多く、市民の方もよく見ていると思う。対応についても丁寧に書かれている。

○会長

運営協議会でも人材不足を懸念するご意見が出ていたので、今後の対応をしっかりとしていくことと、きちんと評価をしながら軌道修正をして進めていくことが必要かと思う。

○委員

介護人材の不足ということは、どなたも危惧されているのかなと思う。

高齢者向けアプリを通じたマッチングとは、元気な高齢者が介護が必要な人を介護するということか。

○事務局

元気な高齢者の方、お手伝いしていただける方にアプリを通じて仕事やボランティアの募集情報を発信し、協力できる方と協力してほしい事業所とを繋げるシステムを作っていきたいと思っている。

○委員

先日テレビで見たことだが、今の 65 歳以上の高齢者は昔と違って元気である。そういった元気な高齢者が、介護が必要な高齢者を介護することによって、元気な高齢者にも生きがいが生まれるし、多少の収入アップも期待でき、日本の経済全体も活性化するのではないかという話があった。そういう高齢者の「高」を「しあわせ」と書いて「幸齢者」と紹介していた。この対応がそれに当たるのかなと思った。

○事務局

今現在もシルバー人材センターにおいて、介護助手として 65 歳以上の高齢者と介護事業所とのマッチングを行っている。令和 6 年度以降はアプリを使ってもう少し幅広くマッチングをかけていきたいということで、ステップアップしていきたいと考えている。令和 4～5 年度の 2 年間、シルバー人材センターにおいてマッチングを行っており、20 数名ほど新規に介護事業所とのマッチングの実績があるので、続けていきたいと考えている。

○委員

公民館や市役所の窓口など簡単なチラシを置いてもらえれば、高齢者の方も興味を持って見られるのではないかと思いますので、配慮していただければありがたい。

○委員

双方向型見守り・避難情報等配信サービスについて、市の何課に申し込めばよいのか。

○事務局

高齢介護課にお申込み下さい。

○事務局

令和 6 年度 4 月から開始する予定のため、4 月以降にお申込みいただきたい。

○会長

いつでも実際の機器を試しにさわってみることができるといった配慮はされているか。

○事務局

高齢者の方に出向いて説明をしたり、地域包括支援センターの職員に説明をするなど、どういう風に伝えていくか、業者と検討中である。令和 6 年 4 月以降対応していきたいと考えている。

<事務局説明>

(2) 介護保険料について

議事(2)について事務局 宮島副課長が説明

○会長

これまで11段階に分けられていたものが13段階になる。第9段階までは据え置き、第10段階以上の方については、所得に応じて負担が増えることになる。基準額の据え置きに当たって、能登半島地震のことが考慮されているが、これまでの余剰金を取り崩すことで据え置きとしている。第10期計画の際は介護保険料の増額があるということは把握しておかなければならない。今後とも介護予防に取り組み、みんなで元気で介護保険を使わなくてもよいようにしていくことが大事である。みなさんの力をぜひ地域のために使っていただきたい。

○委員

第1期から比べると、介護保険料が数倍になっている。市町村によって介護保険料が違うということだが、一概には比較できないが、高岡市の状況はどうか。

○事務局

第8期計画の保険料の状況についてだが、県内9保険者のうち、3番目に高い保険料となっている。

○委員

納付書で支払う方の滞納状況は。

○事務局

収納率を98.5%と見込んでいる。1.5%分が納付書払いの滞納分ということである。

○委員

介護サービスを利用した際の、自己負担割合(1割～3割)の判定基準を教えてください。

○事務局

市民税の課税状況、本人の合計所得金額などによって区分されている。

○委員

この数字は市のホームページ等で公表されているのか。

○事務局

市のホームページや市が配布している「介護保険・高齢者福祉サービスの手引き」にも掲載している。

○委員

計画の３７頁以降について、在宅医療支援センターを昨年まで市からの委託を受けて医師会で実施していたが、今後市で在宅医療支援センターをつくると聞いた。そのことに関する記述はあるか。

○事務局

計画の３６頁に「基本的な方向Ⅱ 安心して在宅生活を送るための支援」ということで在宅生活の支援について記載している。在宅医療支援センターは医師会の事業であり、その機能が市にくるわけではない。高岡市で来年度から実施する予定としているのは３８頁に記載の「■主な事業・取組」の「在宅医療・介護連携推進協議会及び連携ワーキングの開催」と「医療・介護関係者の情報共有の支援」である。この２つを中心としながら、関係者での協議による医療と介護の連携、ＩＣＴを取り入れた情報連携を実施していくこととしている。

○委員

５４頁に「ケアマネジメントの質の向上」、５５頁「デジタルツールを活用した事務作業の簡素化～」とある。認知症ケア会議などの場で、「介護サービス事業所（空き事業所）が見つからない」、「災害・感染症が発生した際、空き情報など市が情報を集約して提供するのではなく、事業所同士が即時に情報交換ができないか」という話がでる。市ではＩＣＴツールを使った介護事業所同士の情報交換ができるシステムを考えているか。

○事務局

今回新たに市で運用するＩＣＴツールにおいては、事業所同士でグループを作って情報交換することも検討していきたい。能登半島地震によってデイサービスが使えなくなった際、市内の事業所にメールで投げかけし、受け入れてくれる事業所が見つかったということがあった。現在も既に、緊急の場合はメールでやり取りを行っている。

○委員

災害等が起きた際、サービスが速やかに使えるように、市の方でも情報の収集はしていると思うが、自分たちの事業所で情報が即座に確認できるようなツールができればよいと思う。一旦、市に情報が入って、市から情報を発信するというのではなく、デジタルツールを使って情報がタイムリーにわかればよいと思う。

介護サービス事業所全事業所がツールに参加する必要があると思うが、市からの呼びかけなどどのように考えているか。

○事務局

介護サービス事業所の方には来年度に入ったら呼びかけをしていく予定である。医療機関等にもまた呼びかけを行う予定となっている。

○委員

具体的にどのようなツールがいいかということ介護事業所を交えて検討をしていただけないか。

○事務局

どういうものがあるのかということは、皆さんからのご意見をいただきたいと思っている。